

2009年度韓国日語日文学会秋季学術シンポジウム
日本語音声の教育と研究の新しい流れ
2009年10月17日 ソウル女子大学

進化する日本語音声教育と 音声コミュニケーション研究

早稲田大学
大学院日本語教育研究科
戸田貴子
toda@waseda.jp

概要

- ▶ 過去の学習者音声の研究と教育
- ▶ 近年の研究動向
- ▶ 教育現場への貢献

対照分析仮説

Contrastive Analysis Hypothesis (Lado 1957)

We assume that the student who comes in contact with a foreign language will find some features of it quite easy and extremely difficult. Those elements that are similar to his native language will be easy for him and those elements that are different will be difficult.

→母語の影響を重視

- ▶ Strong version: 母語と目標言語との比較から、起こりうる問題の予測が可能である。
- ▶ Weak version: 予測はできないが、起こった問題の説明が可能である。

● 誤用分析

Error Analysis

教育現場から数多くの分析結果が報告され、母語の影響では説明できない学習者言語の実態が明らかになった。

→ 学習者の誤用のみが対象

- ▶ 学習者言語の全体像が見えない
- ▶ 習得過程や習得順序が把握できない
- ▶ 誤用として表れないことは分析できない

● 中間言語研究

Interlanguage Research

学習者言語は可変性を伴い、母語とも
目標言語とも異なる独立した言語体系

→ 習得プロセスを重視

- ▶ 学習者言語を全体論的に捉える姿勢
- ▶ 習得に影響を与える諸要因に関心

● 個人要因

- ▶ 年齢
- ▶ 母語(母方言)
- ▶ 学習環境
- ▶ 動機づけ
- ▶ 学習スタイル
- ▶ 学習ストラテジー
- ▶ 適正 など

● 教育理念と音声

オーディオリンガル法

- ▶ 構造言語学・行動主義心理学
- ▶ ネイティブレベルの言語能力の習得
- ▶ ドリル(モデル発音の模倣を重視)

コミュニカティブ・アプローチ

- ▶ 伝達能力の習得
- ▶ タスク(理解可能な発音を許容)

● 近年の研究動向

『日本語教育』142号

日本語教育学会 2009年7月

→音声特集号

● 前川（2009）

- ▶ 『日本語話し言葉コーパス』現代日本語の話し言葉研究用データベース（国立国語研究所、情報通信研究機構、東京工業大学の共同開発）
- ▶ 音韻論に基づくトップダウン分析の限界と大量の音声データをボトムアップにモデル化する必要性
- ▶ 学習者音声データベースの必要性

● 土岐ほか（2009）

- ▶ 『非母語話者による日本語話し言葉コーパス』中・韓・英・その他各25名計100名
- ▶ 『日本語話し言葉コーパス』と比較可
例1：助詞「の」の撥音化「ン」
例2：動詞「言う」の活用形の発音
「イウ、ユウ、ユー」

●松崎（2009）

- ▶ 音声教育の「日記研究」
- ▶ 韻律指導時の内省および行動を
学習者・教師・観察者からのメール
報告をもとに分析
- ▶ 韻律指導法の改善策を考察

● 小河原（2009）

- ▶ 発音指導場面において韓国人学習者の内面に起こる変化を教室談話の分析をとおして報告
- ▶ 教室指導と個人指導では異なる特徴が見られた
- ▶ 音声教育のあり方を問い直す

● 戸田（2009）

- ▶ 調査1：発音上の問題がコミュニケーションの弊害になっている
- ▶ 調査2：大人になってもネイティブ・レベルの音声習得は可能である
- ▶ 調査3：「発音の達人」は発音に対する意識・学習方法・インプットの量などに共通点がある

● 戸田（2009）

調査1～3の研究成果に基づいて、教室内外において発音練習ができる環境を整備し、学習機会を提供するため、以下の三種類の教材を開発した。

- ▶ シャドーイング練習用DVD教材
- ▶ オンデマンド日本語発音講座
- ▶ 日本語発音練習用ソフトウェア

<http://www.gsjal.jp/toda/>で一部公開中。

シャドーイング練習用DVD教材

- ▶ 字幕あり(日本語・韓国語・中国語・英語)・字幕なし
- ▶ Part I 解説編「シャドーイングとは」
- ▶ Part II ナレーション編「東京の魅力発見」
- ▶ Part III 会話編「ベストフレンド」

『日本語でシャドーイング』

Part I

Part II

Part III



● オンデマンド日本語発音講座

- ▶ 早稲田大学遠隔教育センターのデジタル・キャンパス・コンソーシアム(DCC)
- ▶ インターネットで講義を配信
- ▶ 外国語学習環境においても時間と場所を問わず、発音学習機会が提供できる

● 講座の概要

- | | | | |
|-----|-----------|------|------------|
| 第1回 | 発音練習のポイント | 第6回 | い形容詞のアクセント |
| 第2回 | 日本語の音 | 第7回 | 動詞のアクセント |
| 第3回 | 日本語のリズム | 第8回 | イントネーション |
| 第4回 | 話しことばの発音 | 第9回 | 気持ちを伝える話し方 |
| 第5回 | 名詞のアクセント | 第10回 | シャドーイング |

中国語母語話者のための発音レッスン

韓国語母語話者のための発音レッスン

英語母語話者のための発音レッスン

● インターフェイス

- ▶ 教師（動画）
- ▶ スライド（パワーポイント）
- ▶ 目次（ハイパーテキスト）
- ▶ 発音練習ボタン（音声ファイル）
- ▶ 字幕

第8回 イントネーション

WASEDA UNIVERSITY



一時停止 06:38

0:16:58

ja en Search

イントネーションは、コミュニケーションにおいて気持ちを伝えるために大切な要素です。

- 4 発音練習のポイント -2- (04:59)
- 5 発音練習のポイント -3- (06:23)
- 6 発音練習のポイント -4- (08:04)
- 7 発音練習のポイント -5- (09:19)
- 8 発音練習のポイント -6- (10:25)
- 9 講義概要 -1- (11:28)
- 10 講義概要 -2- (12:03)

発音練習のポイント -3-

- 気持ちが伝わりにくい

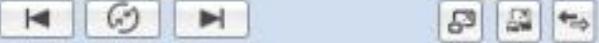
例3: いい会社じゃない

- 「いい会社だと思わない?」(意見求め)
- 「いい会社ではない」(否定)
- 「意外といい会社だ」(驚き)



ボタン

発音練習



日本語発音練習用ソフトウェア

- ▶ 音声認識技術AmiVoiceを活用
- ▶ 統計履歴・学習記録機能を搭載
- ▶ 単語の練習:「言い分け」と「聞き分け」
- ▶ 文の練習:「音読」と「イントネーション」

日本語発音練習用ソフトウェア

日本語発音レッスン - Lesson of Japanese Pronunciation -

単語言い分け学習

はし 橋 hashi	はし 箸 hashi
あつ 暑い atsui	あつ 厚い atsui
かいこく 開国 kaikoku	かいこく 外国 gaikoku
たいがく 退学 taigaku	たいがく 大学 daigaku
てんき 天気 tenki	でんき 電気 denki

発音判定
- Push to talk -

もどる - back - - next -
◀ 前へ 次へ ▶

監修 戸田 貴子 © 2008 Advanced Media, Inc. All rights reserved.

日本語発音練習用ソフトウェア

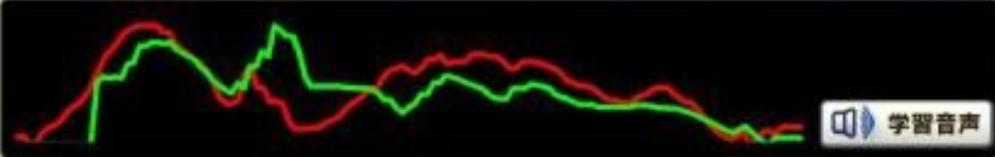
日本語発音レッスン - Lesson of Japanese Pronunciation -

文の音読確認(イントネーション)

かいしゃ
いい会社じゃない? どうい (同意)
iikaisha jyanai  教師音声

かいしゃ
いい会社じゃない。 ひてい (否定)
iikaisha jyanai  教師音声

かいしゃ
いい会社じゃない! こうてい (肯定)
iikaisha jyanai  教師音声



 学習音声

発音判定
- Push to talk -

もどる - back - - next -
◀ 前へ 次へ ▶

監修 戸田 貴子 © 2008 Advanced Media, Inc. All rights reserved.

●まとめ

- ▶ 学習者音声の研究と教育の変化
- ▶ 近年目覚ましく進化する研究と教育
- ▶ 学習者音声データベース構築・
教育方法の検討・教材開発

付記

『第二言語における発音習得プロセスの実証的研究』(平成16年度～17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 課題番号16520357: 研究代表者 戸田貴子)

『音声習得ストラテジーと発音学習システムに関する実証的研究』(平成18年度～20年度科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号18320094 : 研究代表者 戸田貴子)

参考文献

- Lado, R. (1957) *Linguistics across Cultures*, Ann Arbor, MI: The University of Michigan Press
- 前川喜久雄(2009)「日本語学習者音声研究の課題」『日本語教育』142号、日本語教育学会、p4-13.
- 松崎 寛(2009)「音声教育における教師と学習者の内省－韻律指導の実践をもとに－」『日本語教育』142号、日本語教育学会、p25-35.
- 小河原義朗(2009)「音声教育のための授業研究－発音指導場面における教室談話の分析－」『日本語教育』142号、日本語教育学会、p36-46.
- 土岐哲・江崎哲也・岡田祥平(2009)「『非母語話者による日本語話し言葉コーパス』の可能性」『日本語教育』142号、日本語教育学会、p36-46.

戸田貴子(2009)「日本語教育における学習者音声の研究と音声教育実践」『日本語教育』142号、日本語教育学会 p47-57.

戸田貴子編著(2008)『日本語教育と音声』くろしお出版

戸田貴子(2007)「日本語教育における促音の問題」『音声研究』11巻1号、日本音声学会 p35-46.

戸田貴子(2004)『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク
(韓国語版 『일본어 발음 레슨』 Seoul: Nexus Press)

戸田貴子(2003)「外国人学習者の日本語特殊拍の習得」『音声研究』7巻2号、日本音声学会 p70-83.